## 唾と蝿

呆れ返るほどの文化の我物顔に
僕は唾を吐きかけたくなったのです
ところがその唾にもまた
庶民共が我先にとたかってくるからたまらない
それ故に僕は常に追われる身
こんな奴らに追い越されたらたまらんと
取るものも取り敢えず梯子を架ける———
こんなざまでは不良品ばかりが積み上がるに決まっているし
まともな建築なんてできやしないのだ

彼らは加工をもって創造と称し
分解と破壊をもって理解と称する
我々が生み出すものは、したがって
たちまちのうちに破壊を経て加工され
それのみならまだしも
全く別のものとして残り、珍重される
どうせなら、そのまま最初の姿で葬り去られたいものだが
吐いた唾まで舐められるようでは
それもかなわぬことと諦めるしかないらしい

(1991.6.15)